

# 会 議 録

会議の名称	第2期 小金井市地域自立支援協議会（第6回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成22年9月22日（水） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	小金井市市民会館（萌え木ホール）A会議室
出席者	<b>【委員】</b> 伊藤良子委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、山田満里子委員、 山田正市委員、吉沢幸子委員、秦郁江委員、中村悠子委員、 枡本敬子委員、森田純司委員、斎藤修委員、佐久間育子委員 <b>【事務局】</b> 障害福祉課障害福祉係 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係 川村昌弘 地域生活支援センターそら 施設長 熊倉弘子、伊藤奈保子
傍聴の可否	可
傍聴者数	2人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

## 第2期 第6回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日時：平成22年9月22日(水) 14:00～16:00

場所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 11名（欠席2名）

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係

地域生活支援センター そら（2名）

- 配布資料 1：小金井市保健福祉総合計画策定支援委託仕様書（資料1-1～1-5）  
2：小金井市障害者就労支援センター（平成19年12月3日開所）（資料2）  
3：小金井市役所の障害者雇用状況（資料3）  
4：市役所職場実習実施状況（資料4）  
5：市施設の福祉売店設置状況（資料5）  
6：市業務の障害者団体委託状況（資料6）  
7：第2期 小金井市自立支援協議会（第4回）議事要旨  
8：第2期 小金井市自立支援協議会（第5回）議事要旨(仮)

### 1. 開会

事務局（高田係長）	・開催にあたり、配布資料の確認。 ・本日は、富澤委員・大久保委員より欠席の連絡が入っている。
-----------	---

### 2. 議題

#### （1）小金井市保健福祉総合計画策定委員選出について

伊藤会長	・出席者11名により、本協議会は成立。 ・議題2（1）小金井市保健福祉総合計画策定委員選出について事務局より説明をお願いしたい。
地域福祉課(根本氏)	・地域福祉課が小金井市保健福祉総合計画の総合的な事務局を担当する。 ・本計画の概要について説明する。本計画は、地域福祉計画・障害福祉計画・障害者計画・介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画・健康増進計画をひとつに統合した計画となる。 ・計画の実施期間としては、平成24年からスタートし、平成28年の5年間となる。 ・第3期にあたる障害福祉計画と介護保険事業計画については、平成26年度に見直しを行なう予定となっている。 ・策定委員会について説明する。資料1-1（設置要綱）を参照。策定委員会は、総合計画の策定だけではなく、地域福祉計画の策定も目的としている。それ以外の障害分野・高齢者分野・健康分野については、下部組織として各専門部会（3部会）を組織する。要綱第7条に記載。これから新たに部会を設置するのではなく、障害者専門部会は地域自立支援協議会、高齢者専門部会は介護保険運営協議会、健康増

	<p>進専門部会は市民健康づくり審議会よりそのまま成り立つ形となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の構成については、第3条に記載。第2項第4号にある「関係する機関に属する者」とは、各専門部会の委員を指している。よって、各部会より、1名を推薦いただき、策定委員会に加わる形となる。</li> <li>・地域福祉計画は、各障害・高齢者・健康増進をつなぎ合わせていく、すなわち隙間をうめていくようなイメージをしていただきたい。</li> <li>・資料1-5(スケジュール)参照。策定委員会は、合計8回を予定。今年度の策定委員会は、12月と1月に各1回ずつ開催を予定している。今年度の委員会では、今後決定される委託業者が作成した市民向けアンケートについて検討・承認することになる。2月にアンケート実施予定。結果報告は、3~4月上旬にまとまる予定。平成23年度より、具体的な策定作業に入る予定。それをふまえ、平成23年度は計6回となっているが、多めに回数を見積もっているため、進捗状況によっては回数が減る可能性もある。</li> <li>・庁内各種部会は、事務方で組織する各部会を指している。</li> <li>・策定委員会の委員について、推薦をお願いしたい。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市保健福祉総合計画の策定委員を1名選出する。</li> <li>・まずは、質問等あればお願いしたい。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1-5にあるスケジュールについて。平成22年の12月にアンケート(案)の検討となっているが、策定委員会でアンケート(案)を検討する前に各部会で検討する必要がある。専門部会に対し、アンケートが示されるのはいつ頃になるのか。</li> <li>・委員報酬については、どのようになっているのか。平成22年度は、障害福祉課にて委員報酬の予算計上をし、毎月1回程度開催できるような状況にはなっている。しかし、平成23年度のスケジュールから見ると専門部会は多くても7回となっているが、回数を増やしたい場合は対応可能か。自立支援協議会は、毎月開催することを見込んでいる。どのようになるのか。要望とすればよいのか。</li> </ul>
地域福祉課(根本氏)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2点目の質問は要望として受ける。</li> <li>・資料1-5については、議会に提出した資料であり、新たに予算措置する部分に①や②と記しているもの。印とは別に平成22年度の自立支援協議会は、予定通り開催されることになる。年度内の会議の中で、アンケートについて示し、その会議の中で検討を重ねていただき、策定委員会へと出されることになる。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2点目の質問は、要望とさせていただくのでよろしくお願いしたい。</li> <li>・アンケートについては、12月の頭ぐらいに示されるのか。</li> </ul>
地域福祉課(根本氏)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おそらく12月上旬になると思われる。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月の1回の会議の中で検討することになるのか。</li> </ul>
地域福祉課(根本氏)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうなる。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かなりハードなスケジュールとなる。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトなスケジュールになるので、なるべく早く示していただき、時間的余裕をお願いしたい。</li> <li>・策定委員を1名選出したい。立候補はいかがか。</li> </ul>
一同	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補がいらないため、選出方法について意見をお願いしたい。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の中から指名推薦の方法がよいのではないか。</li> </ul>

伊藤会長	・中村委員より選出方法は、指名推薦がよいのではないかという意見をいただいた。この方法で決定することについていかがか。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・どなたか指名推薦をお願いしたい。
中村委員	・矢野副会長を推薦する。
伊藤会長	・矢野委員を推薦するとの意見が出されたがいかがか。
一同	・異議なし。
伊藤会長	・異議なしと認め、本協議会からは矢野典嗣委員を小金井市保健福祉総合計画策定委員へ選出する。よろしくをお願いしたい。
矢野委員	・橋渡しができるよう頑張りたいと思う。皆様からの協力をお願いしたい。

## (2) 障害のある人を取り巻く課題についての検討

「小金井市障害者計画（平成 20 年度改訂） 第 2 期小金井市障害福祉計画」 P. 33

課題 4：だれもが安心して暮らせるバリアフリーの地域社会づくり（前回未検討事項）

伊藤会長	・本日のテーマは「小金井市障害者計画（平成 20 年度改訂） 第 2 期小金井市障害福祉計画」 P. 33 課題 4：「だれもが安心して暮らせるバリアフリーの地域社会づくり」の前回未検討となっている事項より議論を始めていく。事務局より説明をお願いしたい。
事務局（高田係長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の資料を参照いただきたい。ピンク色の冊子「災害時要援護者対策の手引き」を参照。P. 2「第 1 章 基本的な考え方」の「1-1.手引の目的」「1-3.要援護者における定義」についての説明。</li> <li>・P. 1「要援護者支援の全体像」についての説明。</li> <li>・現在は、名簿をもとにした民生委員の個別訪問が完了し、個人票の完成まで至っている。今後は、要援護者本人と支援者で支援プランを作成する予定となっている。</li> <li>・今年度中に市内でモデル地区を選定する。平成 23 年度よりモデル地区で支援プランを作成し、支援者と要援護者のマッチングをどのように行なうのか等について検討し、順次市内全域へと広げていく予定となっている。</li> <li>・山田正市委員より意見が出されていたが、前回資料 2-11～2-13 については「重度心身障害者火災安全システム事業について」「緊急通報システム事業について」の資料。</li> <li>・2-13 の図を参照。緊急通報システムでは、本人にペンダント式の通報装置があり、それを押すことによって東京消防庁へ通報が行くようになっている。そこから、事前に登録された協力員へ連絡が入り、対応する形となる。火災安全システムも同様。</li> <li>・対象者は、資料 2-12「(3) 対象者」で示しているとおり。</li> </ul>
伊藤会長	・質問等をお願いしたい。
山田満里子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿について。親は小金井市内在住であるが、地方の施設に入所等している当事者が帰省をしている場合もあると思われるが、万一の災害時にそのような場合があったとしても小金井市にはいないものとし、安否確認はされないという現状がある。</li> <li>・親の会で対話集会の時に上記の件について話しをしたが、そのことについては念頭になかった、何らかの対策は考えたいと思っている、と部長から回答があっ</li> </ul>

	た。現在は、どのようになっているのか。
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来であれば、災害時要援護者に対する検討会を庁内で実施する必要があると思われるが行なわれていない。それもあり、山田満里子委員からの話を担当課である地域安全課が正確には掌握をしていない。災害時要援護者に関しては、地域福祉課となっている。地域福祉課や地域安全課だけではなく、他課とも連携をする必要がある。日程は未定だが、庁内連絡会で検討を開催し、その中で情報を共有し、課題検討をすることになると思われる。</li> <li>・現在の進捗状況としては、地域安全課に正しく伝わっていないため、対策についても保留の状態となっている。</li> </ul>
山田満里子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の会から伝えていった方がいいのか。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉計画に関するアンケートを実施する。そのアンケートは、団体あてにも送付する。その中で記入いただくと一番わかりやすいと思われる。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者によっては、その状況が緊急時なのか緊急時でないのかを判断することが難しい人もいる。要援護者は、火災や地震のような緊急時にも利用できる制度なのか。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象として該当しない方でも、手上げ方式があるため可能。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P. 2の「要援護者における定義」①～⑤に該当しない方でも含まれるということであるが、情報についてはどのようになるのか。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請書を記入し、その申請書を地域福祉課へ提出する。そこで名簿を作成し、その名簿をもとに民生委員が個別訪問を行なう。事務局の報告では、民生委員が個別訪問を終えているということだが、今後の追加申請はその都度対応になると思われる。</li> </ul>
森田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地域の選定についての話があったが、その決定したモデル地域の報告について協議会で知らせてもらえるのか。</li> </ul>
事務局（高田係長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望があれば地域福祉課へ働きかけ、協議会で報告することは可能。</li> </ul>
森田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ必要なことであると思われるのでお願いしたい。</li> <li>・支援プランが決定した後でも、当事者の必要性など支援プランの中へ組み入れていくことの発信などについても協議会から行なっていく必要があると思われる。</li> </ul>
高田係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的なモデル地域の要望ということでよいのか。</li> </ul>
森田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画のP. 80《具体的な取り組み》の「(2) 避難誘導・避難所の整備」の中で「～2次避難所として、障害者福祉センターを予定しています。」との記載があるが、障害者福祉センターは小金井市でも北部に位置する。全体的に考えた場合、福祉施設が避難場所となった方がいい場合もある。または、介護保険施設や作業所も同様。このような理由から、どの地域なのかということは教えていただきたい。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体で災害に備えて工夫していることや取り組んでいることがあればお願いしたい。</li> </ul>
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神の団体である「考える会」から意見が出されているので報告する。</li> <li>・現在の福祉避難場所としては、貫井北にある保健センターが含まれていない。精神に障害のある人に比較的馴染みのある保健センターを避難場所として含めてほしい。</li> <li>・災害時の薬の確保について、当事者・家族共に不安は大きくある。その手配に</li> </ul>

	<p>ついて検討をお願いしたい。できれば、避難場所（保健センター）に行けば薬を確保してもらえるよう手配いただきたい。</p>
伊藤会長	<p>・避難場所については、「災害時要援護者対策の手引き」のP. 16の「5-1.避難場所の種類」を参照してほしい。図にある通り、福祉避難所に保健センターが含まれていない。</p>
吉沢委員	<p>・薬の確保に関する不安は大きい。</p>
矢野副会長	<p>・精神の人達ばかりの問題ではない。知的障害のある人達もてんかん薬や安定剤など薬が必要な人も多くいる。日常と違った状況になった場合、パニックにもなる。その点をどのようにしていくかは大きな課題。</p> <p>・特別支援学校も福祉避難所には入っていない。生活実習所も同様。入っていない場所であっても一時避難所としての機能は果たせるかもしれない。その辺の連携についての検討も必要。</p>
佐久間委員	<p>・小金井特別支援学校と生活実習所は、候補には考えられている。しかし、市が所有しているわけではないため、その協定を結ぶ必要がある。協定を結ぶためにはどのようにしていったらよいのかなど、解決する課題がある。そのため、すぐというわけにはいかないが、2つの施設についての検討はされている。</p>
事務局（高田係長）	<p>・平成21年3月に修正された小金井市地域防災計画のP. 192に「第2節 避難場所、避難所等の指定」について記載されている。</p> <p>・一時避難場所の指定として「市では、災害発生時の一時避難場所として、地域住民の日常生活と結びついた学校のグラウンド、公園を指定している。」とある。</p> <p>・二次避難所の指定としては「高齢者、障害者、乳幼児等、一般の被災者と一緒に避難所における生活が困難な災害時要援護者に対し、医療や介護等必要なサービスを提供するため、社会福祉施設、市立保育園を二次避難場所として指定している。」とある。</p> <p>・二次避難所は、わかたけ保育園・小金井保育園・さくら保育園・くりのみ保育園・障害者福祉センターの5か所が指定されている。</p> <p>・保健センターは、災害時の保健医療の拠点として考えられている。そのため、保健センターが避難場所となってしまうとその機能ができなくなってしまうと思われるため、避難場所としての指定はされていないと思われる。</p> <p>・医薬品・医療資器材の確保については「医療・助産救護を実施するに要する医薬品、医療資器材は、第1次的に市の備蓄する医薬品等（市と医師会が協議し選定した物等）を使用し救護活動を行う。」ことになっている。</p> <p>・「市備蓄及び医師会医療救護班が持参した医療品等で不足をきたす場合に、福祉保健部保健医療班は、薬剤師会に協力を要請して調達し、それでも不足する場合には都に対し要請する。」ことになっている。</p> <p>・「福祉保健部保健医療班は、薬剤師会と連携の上、医療救護所や医療機関等への医薬品の供給拠点として、医薬品ストックセンターを市保健センターへ設置する。」ことになっている。</p> <p>・精神薬等どのように調達するのかなど、細かいところまでは記載されていない。</p>
吉沢委員	<p>・備蓄する場所は、市役所なのか。それとも地区ごとにあるのか。</p>
事務局（高田係長）	<p>・地域は特に限定されていないと思われるが、先程の話同様に協定を結んでいるため、災害が発生した場合に救護所が市内に設置される。この辺であれば消防署となる。そのような場所に薬剤師会から医薬品が供給され、医療が必要な人は医</p>

	療拠点へ行く形となる。
吉沢委員	・救護所が設置される場所については、とても大事なこと。知っておく必要がある。
事務局（高田係長）	・この計画の内容について、障害のある人たちにきちんと情報が行き渡るようにしていくことも課題。
佐久間委員	・地域防災計画については、地域安全課が担当課であり、市のホームページでダウンロードできる。そのことについて情報提供させていただく。
秦委員	・新潟の柏崎の震災時に救援に行ってきた。今のシミュレーションの内容が現実起きた。拠点となる救護所にテントが張られ、全国から日赤を中心に医療支援者が集まり、対策本部が司令部となりそれぞれの救護所に振り分ける。 ・地図を渡され、ひとりひとり訪ね歩いて健康状況をチェックした。その際、個別に必要な場所を紹介するなど対応をした。現地には、必ず保健医療の拠点は置かれ、医師も常駐している。
矢野副委員	・当事者の人達が、日常の薬について記載したものを携帯する必要がある。薬がわかれば、調達する方法もあるが、服用している薬がわからなければ難しい。
吉沢委員	・身近な方々が支援できるような体制を頭に入れ、情報を認識しておく必要がある。防災計画の中だけではなく、障害の計画の中にも一時避難場所などの記載がされているとよいのではないか。
伊藤会長	・課題 4 の検討を終了する。

#### 課題 5：障害のある人の自立と就労支援

伊藤会長	・続いて、計画の P. 35「障害のある人の自立と就労支援」についての協議に入る。事務局より説明をお願いしたい。
事務局（高田係長）	<p>・資料 2 は、就職活動の支援と障害者雇用の促進に対応する資料として、小金井市障害者就労支援センターの状況を示している。相談件数は、右肩上がりに増加。定着支援の伸びが大きい。就労支援センターの所長の斎藤委員からも後ほど詳しい説明をお願いしたい。</p> <p>・資料 3 は、市での障害者雇用の拡大として、小金井市役所の障害者雇用状況を示している。資料参照。</p> <p>・資料 4 は、市及び関連施設での職場実習の受け入れの検討に対応する資料として、市役所職場実習実施状況を示している。平成 22 年度も同様に職場実習を実施している。資料参照。</p> <p>・資料 5 は、福祉売店の充実と整備に対応する資料として、市施設の福祉売店設置状況を示している。カタカナで「リンクの店」と表記されているが、正しくは平仮名で「りんくの店」であり、訂正する。</p> <p>・（仮称）小金井市貫井北町地域センターに喫茶室が入るかどうかにについては、市民検討委員会で検討中。入ることになれば、福祉売店の設置について努力はしていきたいと考えている。</p> <p>・武蔵小金井駅前の市民交流センターについては、地権者の関係があり「コロラド」という売店が入ることが決定しているため、福祉売店の設置は不可。</p> <p>・資料 6 は、市の業務の委託促進と業務契約の拡大と入札時における優遇の検討に対応する資料として、市業務の障害者団体委託状況を示している。</p>
伊藤会長	・資料 2 について、斎藤委員より補足説明をお願いしたい。
斎藤委員	・相談者は、精神障害のある人が一番多い。実際に相談に来られる人は、三障害

	<p>共通してどの団体（施設）にも所属していないという人が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタート当初は、作業所や特別支援学校卒業生の利用を予測していたが、実際はそうではなかった。</li> <li>・内容は、就労に限ったことではなく、生活全般に関する相談が寄せられる。</li> <li>・意欲はあるが、すぐに就労できるような力はない人という人が多い。精神障害のある人が、週 30 時間働くことができるということはなかなか難しい。就労するまで、1～1 年半という準備期間が必要となっている。</li> <li>・何名かは就職することができてはいるが、その職場に定着していくことが難しくもある。</li> <li>・資料 4 の平成 21 年度の数字は、7 回 34 名ではなく、2・3 月にも実施され計 53 名と記憶している。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問等お願いしたい。</li> </ul>
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 5 に関して「あじさい会（家族会）」「あん家族会」「つどいの会」等の有志より要望が集まっているので紹介したい。</li> <li>・「福祉売店の充実整備」について。新市役所、新公民館等に障害者団体の商品を置いてほしい。</li> <li>・「市の業務委託の促進」「業務契約の拡大と入札時における優遇の検討」について。障害者団体へ積極的に市役所内業務仕事をおろしてください。</li> <li>・工賃を毎年増やすことはどの事業所も簡単ではなく、様々な内容の業務委託が必要。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉売店の充実については、事務局からの説明のとおり、積極的な働きかけが必要だということは認識している。</li> <li>・自立支援協議会の役割は、要望の場ではなく、あくまでも協議の場。市に対し、様々な団体から要望書等は出されているが、その要望書等との公平性という部分でもこの要望をどのように取り扱うかという問題がある。総合福祉計画に関するアンケートを福祉施設に対しても実施するため、そのアンケートの中で細かく記入いただきたい。</li> <li>・地域でどのような要望があがっているのかという情報の共有は必要だとは思っている。</li> </ul>
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いただいた回答にて各団体へ返答する。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に P. 55 にある「(2) 市での障害者雇用の拡大」の中に「現在、市の障害者雇用の状況は、法定雇用率満たしているものの決して雇用率は高くはなく、・・応募者数もごく少数です。」とあるが、応募者が少ないということによる雇用率の低さなのか。</li> </ul>
佐久間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の募集方法は、身体障害に特化して募集をしていたという背景がある。身体障害のある人は、自身で仕事を見つけることができる人が非常に多く、なかなか応募されないという状況がある。</li> <li>・三障害一元化となっている中、障害者雇用拡大の必要があるではないかという定例会の一般質問に対し、総務部長が今後の拡大に努めていきたいと答弁していた。障害別についても一元化を広く求めていきたいと答弁していた。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の採用条件も検討するということか。</li> <li>・資料 4 を見ても、身体の人とは 0 となっているのは事実としてある。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害のある人は、あまり相談に来ない。</li> <li>・実際に身体障害のある人の市役所の職場体験実習は、先月の 1 名。</li> </ul>



事務局（高田係長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年 7 月に障害者の雇用に関する法律の改正があった。短時間労働者も含むという形で法改正が行われた。それにより、小金井市の障害者雇用率も短時間労働者も含めるようになったため、1.98%になり、法定雇用率の 2.1%を割り込んでしまっている。職員課では今年度中に募集をかけ、来年の 6 月の基準日までに 2.1%以上の達成を目指している。何名雇用するかということは、明確にはなっていない。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分母が増えた形となったため、割り込む状況が生じている。</li> </ul>
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所の職場実習は、精神に障害のある人が多いのか。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神に障害のある人が少ないというわけではないが、知的に障害のある人の方が若干多くなっている。</li> </ul>
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作品を置かせて欲しいことや市の雇用促進などの要望が出されたが、これからの時代はただ市役所に頼む形ではなく、自分たちで売り物になる物を作る必要がある。売り物になるものでなければ売れない時代。</li> <li>・先日受講した会の中でこれからはバリアフリーではなく、ユニバーサルではないかという話があった。健常者に障害の理解を求めるだけではなく、障害のある人同士がお互いを理解していく必要がある。長い間、精神にかかわってきたが、他障害のことについては、あまりよく知らない。これからは、当事者も家族も他障害を含めてお互いに理解し合える環境が必要ではないかと思う。</li> <li>・「軽喫茶くりやま」などの市の施設では、家賃や光熱費がかからないという一般の社会から比べると非常に恵まれた環境。それにもかかわらず、営業状態をみているととてもやっていけているとは思えない。社会全体が厳しい状況にあるが、障害者だから特別という時代ではないと思う。もう少し、今の厳しい環境を自覚していかないとますます状況は厳しくなる。</li> <li>・産業振興プランの中で、東小金井でアンテナショップができるが、そのような場所で障害のある人雇用ができないだろうかといった検討をしている。このように、福祉ではない分野の方への理解促進をはかっていく必要もある。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに理解し合える場というのは、具体的にどのような場をイメージしているのか。</li> </ul>
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）小金井市貫井北町地域センターをどのような場にするのかということについての検討がされている。その中で、障害のことも大事だが、障害のことばかりではなく、このセンターをどのような施設にしていきたいのかということをもう少し広い視野をもって検討してほしいという話しがあった。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人同士が交流できるような場はあるのか。障害者週間などがそのような場になるのか。</li> </ul>
山田満里子委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア市民活動センターが中心となって実施されている交流会（「太陽の広場」）がある。現在は、昔とは形を変えてきているが「太陽のひろば」がいろいろな障害のある人の集いの場と考えられる。</li> </ul>
吉沢委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアとして、何十年もの間「太陽のひろば」にかかわってきた。当事者や家族が集まり、市の職員組合の方も協力してくれていた時代もあった。いつの間にか旅行会のような形に変化してきた。</li> <li>・学生のボランティアも増え、大勢の方が顔を合わせて話ができる機会となっている。そのような場は必要。</li> </ul>
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事は、人間にとって大事なことで。シルバー人材センターでは、職場開拓チームがあり職場を開拓している。自分でもできることをと思い、配食サービスの事</li> </ul>

	<p>業所である「はあとぽっと」へ障害者雇用について打診し、話しをする機会をもつことができた。しかし、雇用については職員の全員の同意が必要ということなどもあり、前向きに検討しますとの回答のみでその先に進んでいない。この先に進むことが難しく、雇用者側も勤務時間など具体的なことについてどのようにしたらよいかわからない部分があり、その部分を就労支援センターがサポートしてもらえるとよいのではないかと考えている。個人でその部分を担うことは難しい。ただ、現実には職員の数も少なく、多忙な状況だということがあるため、その辺りも難しい。どの職場でもそうだが、積極的に働きかけていかないと雇用までは難しい。そのような意味でもいろいろな人が集まって職場開拓につながれるとよいと思った。</p>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小金井市は、社会資源が少ない地域。それゆえ、職員が顔を出し利用者が顔を出しということを重ねて働きかけていかなければ、結びつくことが難しいということは充分承知している。つなげていきたいとは思っているが、なかなか動くことができずにいる現状がある。ただ、少しずつ動きがでてきているので、つなげていきたいと思っている。</li> <li>・小金井市で一番大きな企業は、小金井市役所。</li> </ul>
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は何名体制なのか。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3名。</li> </ul>
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着支援、ジョブコーチとなれば、その人1人に職員がかかわる時間が長くなる。就労が増えれば増える程、スタッフを増員しなければ、定着や開拓は困難だと思われる。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場開拓と定着のどちらも必要だが、並行しているとどうしても目の前にいる支援に重点を置いてしまう。気持ちはあるが、現実的に動けない。</li> </ul>
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題にある「就職活動の支援」として、障害者就労支援センターを設置されたところがあるが、設置された以降についての検討も行なう必要がある。</li> <li>・福祉売店や市の業務委託については、談合や競争入札と言われている中で、福祉施設がどのように仕事を得ているのかということをしきりと示していかなければ、市民からクレームがついてさらに厳しくなる状況も考えられる。</li> <li>・それぞれの施設が自信を持った商品を提供していくことも含めて、内部努力は必要だと思われる。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設側として発言するが、商品に対する意識は非常に高くなっているし、小金井市内で売られている大部分のクッキーやパンはいずれも一定の水準には達していると思っている。</li> <li>・障害のある人の中には社会を全く知らない人もいるため、そのような部分で一般の水準というのはなかなか難しいが、支援者側は、今までとは違うという就労に対する意識はとても高くなっている。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労に結びつくような利用者との接点が少ない。就労へつながったとしても継続してアフターフォローが出来ず、つぶれてしまい戻ってくる状況がある。</li> <li>・流れとして、障害のある人にとって就労だけが道なのかという気もしている。もちろん、就労へ結びつくことができればよいし、いろいろな選択肢が増えるということは大切。そのため、自分たちでも努力していかなければならないとは思っているが、そこに福祉の壁のようなものを感じる。</li> <li>・折角「りんくのお店」の場があるのに、当番制に留まっている。活性化しようとする力のある事業所が引き受けなければ、次の段階へは進まない。そうは言っ</li> </ul>

	<p>も、それぞれの施設が手いっぱいな状況であり、次に向かっていく努力ができないのも現実。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人数が限られているため、利用者と共に外に出て活動することができない。外に出る付き添いの職員に人数がとられると、現場が手薄になってしまう。施設に閉じこもることは望ましくないとは思っている、そうせざるを得ない状況がある。</li> <li>・仕事を通して、社会との接点はもってほしいとは思っているがなかなか難しい。</li> </ul>
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの現場でも、職員の人数は倍にいてもいいと思っている。ただ、財政的にも難しいというのはわかっている。</li> <li>・就労した後のフォローは不可欠。就労支援センターが地域生活支援センターそらと一緒にあればよいと思う。</li> </ul>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の規模がないときちんとした支援ができない。</li> </ul>
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労しても、アフターケアが継続的にないとドロップアウトしやすい。深く傷ついて施設へ戻ってくるが、そうすると立ち直るまでの時間がかかってしまう。</li> <li>・障害のある人たちが社会に参加して、どのような形で生きがいを持てるのか。その生きがいをどのように作っていくのかということが必要になってくる。その手立てとして、自分は社会参加をしているのだというやりがいが必要になるし、その中で商品としての価値もどのように作っていくのかというせめぎ合いにもなる。</li> <li>・就労支援センターの役割は大きい。相談件数も増加している中、どのように充実させていくのかも課題。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援センターの実績をみると、定着支援が増加している。その支援をどのように継続させていくのか新たな課題なのではないかと思う。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市の就労支援センターでは、件数をあげることを重視して実施しているところもあるが、就労だけではなく準備の中での生活支援についての対応も必要だと感じている。</li> <li>・就労支援センターの業務の広がりをもどのようにしていくのか、センター内でも課題としている。</li> </ul>
枡本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会適応訓練事業は、小金井市内での事業所はあるのか。</li> <li>・「くりやぶね」でも実施していて、6～7年目ぐらいまでは利用者がいたが、現実的な制度ではなかったと感じている。利用者がいない場合、2年経過すると取り消されてしまう。</li> </ul>
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、小金井市の事業所としては農家が1件ある。市内ではないが、2ヶ所の寺院で清掃の業務がある。</li> <li>・多摩府中保健所6市の管轄内で、10名程度の利用者がいる。</li> <li>・社会適応訓練事業の難しさは、マッチングすること。事業所があっても利用者がいない場合やその逆もある。以前に比べると、オーダーが減っている状況ではある。</li> <li>・1日に3000円が支給される制度。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援センターでも社適を希望する利用者がいない状況。</li> </ul>
秦委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社適の事業は、良い制度。ぜひ活用してほしい。</li> </ul>
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のネットワークの課題となるのではないか。</li> <li>・欠席の大久保委員会から希望があれば、次回意見等を伺うことにしたい。</li> <li>・課題5の検討を終了する。</li> </ul>

(3) 年代別障害関係機関ネットワーク図を使つての課題の検証

伊藤会長	・時間の関係上、次回以降としたい。
斎藤委員	・地域生活支援センターそらが生活支援をしているが、就労して生活と生活するための就労、同じ「生活」と言っても違う部分を支援している。
矢野副会長	<p>・1人で生活していくための生活支援と家庭の様々な問題を抱えていく生活支援は異なるということか。それをどこがどのようにカバーしていくのか。年代で素質が異なるという点と共通する。どこが中核的なセンターとなって担っていくのか、どのように連携がはかれるかということになる。もう少し図を整理していきたいとは思っている。このような考えが総合福祉計画へも反映されていくのではないかとも思う。</p> <p>・11月はネットワークの検討があり、12月はアンケートの検討となる。その辺も意識しながら、構想図の概要ができるとよいと思っている。これまでの議論を整理しながら検討をお願いしたい。</p>
中村委員	<p>・それぞれの現場で抱えている問題で厳しい状況となっているのは事実。この会議の場合は、それぞれの現場をネットワーク化するためにあり、そのための情報を共有していく必要がある。</p> <p>・比較的軽度の方々の生活のサポートをする場がないという現状がある。その支援する場をどのようにしていくのか。それも就労支援センターが担っていれば、就労そのものに時間がかけられなくなってしまう。そのようにならないためにも、それぞれの現場の役割を果たしていく必要がある。課題を出すだけで終わってしまうのはもったいない。小金井市で何が欠けているのかを明確にする必要がある。当然、市にだけ要求するのではなく、私達自身も動き出さなければならないと思っている。</p>

3. 次回会議（課題等）の確認

伊藤会長	<p>・今回は、10月18日（月）14：00～。場所は、前原暫定集会施設 A会議室。</p> <p>・議題6「家族介護者の負担軽減と家族支援」の検証を進める。</p> <p>・11月15日（月）も同様の場所で開催する。12月移行の開催場所は未定。</p> <p>・12月20日の会議はおそらく総合福祉計画のアンケートの検討になると思われる。</p> <p>・事前に資料を送付する予定。希望等があれば、事務局へ。各委員より当日資料を用意する場合は、20部用意してほしい。</p>
秦委員	・第4回の会議の議事録の中で、伊藤会長より「次回、ひきこもりの件について秦委員に話を伺う・・・」との記載があるが、どのようなタイミングでどのようなものを用意すればよいのか。
伊藤会長	・ひきこもりについて、保健所がどのような取り組みをしているのか紹介していただきたい。
秦委員	・富澤委員の話されているひきこもりというものがどのような対象をイメージしているのかわからない。社会的ひきこもりの方なのか、精神に障害のある人の陰性症状としてのひきこもりなのか。どちらを主としているのか。文脈からは、おそらく後者だとは思いますが。富澤委員が本日欠席されているため、確認ができない。
矢野副会長	・ひきこもりの件数は多いのか。

秦委員	・全てを含むととても多い数になる。
佐久間委員	<p>・家族会などから、かつてのような保健師の訪問活動を行なってほしいという要望が多くある。</p> <p>・未整理だと思っているのが、平成 16 年に精神保健に関する業務が市区町村へと変更され、一般相談は市区町村、困難事例や未受診など専門性の高い事例に関しては引き続き保健所となっていた。市役所だけに未受診や医療中断などの相談が寄せられ、保健所に協力が求められないという実態があった。その辺りの役割分担について整理する必要があると思っている。毎年、議会の中でも役割分担についての質問が上がる。</p> <p>・市に一般相談の業務がおりにてきているのに、実施できていない部分があるのではないかという声もある。</p> <p>・法改正により、ひきこもりの支援を子ども家庭部でも始めている。</p> <p>・連絡会のような場で検討できればと思っている。</p>
秦委員	<p>・富澤委員と佐久間委員のひきこもりについての発言は異なるものだと感じている。まずは、富澤委員の発言内容を整理していきたい。</p> <p>・小金井市とは、毎月の連絡会で話しができていたと感じていたが、佐久間課長からの話しを受けて、もう少し現場で整理しなければならないとは思っている。</p>
佐久間委員	・次回、富澤委員からの話を伺う必要があると思われる。

#### 4. その他

##### (1) 事務連絡

事務局（藤井係長）	・来る 9 月 29 日（水）に開催される多摩地域自立支援協議会のセミナー参加者の報告をさせていただく。参加者は、伊藤会長・枡本委員・障害福祉課高田係長・そら熊倉所長・伊藤の計 5 名。
事務局（熊倉）	・配布した第 5 回議事録（仮）の確認をお願いしたい。加筆修正等は、10 月 1 日までに事務局までご連絡いただきたい。

以上

